

国語科からの メッセージ 第三弾

星野：みなさん、お久しぶりです。お変わりありませんか？

私はこの機会に昔から密かにファンである「尾崎放哉」を紹介しようと思います。

尾崎放哉とは明治から大正にかけて活動した俳人です。彼の魅力は「奔放」と、「孤独」であり、それが前面に出ている彼の自由律俳句は、時にクスッと笑えますし、時に哀しさを感じて切なくなります。さらにどれもツッコミどころ満載です。私が好きな彼の俳句をいくつか紹介します。

- ・ こんなよい月を一人で見て寝る
- ・ ころりと横になる今日が終わっている
- ・ 蜜柑食べてよい火にあたっている

Twitter に載せるような(笑)内容のない俳句をよんで、「いくら自由律俳句といっても、さすがに自由すぎる…。こんなのあり？」と、高校生の時の私は衝撃を受けました。そこから彼の作品や生涯に興味を抱き、調べていくうちにひきこまれて、今に至ります。

味わい深い彼の俳句を通して、「短文でも、どんな言葉を選ぶかによって相手の感じ取り方は変わる」のだと、学びました。俳句であれば皆さんも読みやすいかなと思います。ぜひ、お家で調べてみてください。